

事務事業点検シート

ふるさとづくり寄附金事業

施策名		適正な行財政運営の推進		
1	事務事業名	ふるさとづくり寄附金事業	担当課	財政課
委員名		御意見等		
川西会長		1. 本制度が良いか悪いかについては色々な議論があり、それが当然だが、ここでは、所与の前提として、是として考えたい。 2. 多くの寄付金が集まり、守谷市としての純収支も良いようである。営業活動に不慣れなはずの市の職員としては、これは非常に立派な成果であると思う。まずは、高く評価をしたい。 3. 然し、守谷市の取り組みの、わかり易さや、透明性、公開性が十分であるかについては、少し疑問が残る。金額も大きくなってきているので、これらにももっと力を入れてほしい。業者間の公平性や、コスト削減の努力が必要であるが、現状ではこれらが分かりにくい。この事業は民営化の逆の側面、即ち、民間の事業に市が介入しているという側面があるので、注意が肝要である。業者間の公平性を保ち、無駄なコストを省くことと、わかり易さ、透明性、公開性を保つこととは、謂わば本事業の車の両輪である。本格的に取り組みを始めてまだ日が経過していないので大変とは思いますが、適宜上記の改善を図ってほしい。		
吉田副会長		貴重な財源になっていると評価できます。 国の制度そのものが変わっていくことが予想されるだけに、長期的な展望が難しいのですが、市役所の創意工夫が試される事業だと思います。 返礼品の取り扱いには、品目の設定などさまざまな課題はありますが、これは守谷だけに限ったことではありませんので、手続き等の透明性や公平性を確保しながら、引き続き、所要の改善が図られるよう期待しています。		
牛島委員		(議事録の音声情報から評価します) 問題を発見し、一つ一つ改善しているような印象を受けた。 支出+減収よりも収入が多いようなので、守谷市にとって必要な事業である。 現在も行っている改善と重複するが、以下2点改善するとよいのではないか (1) 返礼品の質の管理。返礼品目当ての寄付は「良いものを安く買う」行動なので、寄付のリピート率をあげるためには質の管理やよく希望される返礼品の分析が事業の長期的な運営に必要だと思われる。 寄付によって自由度の高い予算を増やし、自由度の低い予算から返礼品のコストを支払う仕組みを作ることはいできないのか。		
松尾委員		① 寄付金収入を特定財源に計上、コストである返礼品代他を一般財源から支出する現行処理を、他自治体の事例を上げ「寄付金-返礼品代等」を一般財源とするよう見直しを提案したが、その事例の方が間違いという回答で見直しには消極的だった。唯我独尊と思う。他事例を勉強し自らの事務処理に改善の余地がないかを探る姿勢が見えないのは残念。 ② 返礼品事業者に関して、市内事業所開設届の有無確認が遅れており市外業者も取扱い事業者になっている印象を受けた。市外業者を返礼品取扱い業者に認定しているのは当寄付金の趣旨に反すると思		

	う。見直しが必要。 ③ また返礼品事業者の返礼品登録原価と守谷市が「ふるぽ」に支払っている寄付金の 60% (返礼品代と送料) 相当額との整合性チェックをやり始めているが、当該チェックを定期的・循環的に行い「ふるぽ」への支払い＝寄付金×60%分が登録原価と比べ過大にならないよう注意を払って頂きたい。 ④ 一方、市 HP 上のふるさと寄付金状況は収入のみ公表され、条例で定める運用→寄付の使途、充当事業等が公表されていない。即時、改善が必要。 ⑤ これらの点から、寄付金をいかに多く集めるかに事務事業の主眼が置かれ、それを管理取扱う環境整備等が遅れているのが現状と思う。自主財源をどのように豊かにするかの観点で事業全体を見直して頂きたい。					
西尾委員	まだ運営基本方針が確定していない事業であるが、金額規模は大きく、関わる事業者の選定については、あいまいな点をなくし、明確な基準を設けるべきである。 また年々寄附額は伸びているが、その分歳出額も増大している。それが寄附金では賄われない現状と、この税制自体が社会的に懸念される材料も多々あげられており、今後が不透明であり市民として不安感是否めない。					
	川西 会長	吉田 副会長	牛島 委員	松尾 委員	西尾 委員	合計
施策の貢献度	18	15	15	8	4	60
事業の必要度	20	15	20	20	14	89